

2021年3月24日

各位

会社名 株式会社シャノン  
代表者名 代表取締役社長 中村 健一郎  
(コード番号:3976 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 経営管理担当 友清 学  
(電話番号：03-6743-1551)

2021年10月期 第1四半期決算において出た質問への回答

Q1	前年同期比に比べて原価率が改善した要因について教えてください
A1	主要因は以下になります。 ①利益率の高いMA-サブスクリプション売上が増加（前年同期比+35百万円） ②MA-プロフェッショナル売上について、前年同期比より利益率の高い案件が多かった ③前年同期のEM売上は、原価率が高かった（原価率は案件によって異なる） ④EM売上について、前年同期は、大半がリアルイベント案件だったが、当期は大半がリアルイベント案件よりも利益率が少し良いオンラインカンファレンスやバーチャルイベント案件であった ⑤売上の増加に連動しない固定費（減価償却費等）があるため、売上の増加はその分全体原価率の改善要素とった
Q2	第1四半期で利益に関しては既に通期業績予想を達成していましたが、上方修正の予定はありますか？
A2	フェアディスクロージャーの観点から、開示情報以上の事をご回答致しかねますことご理解いただけますと幸いです。 なお、適時開示制度に則り、公表している業績予想に修正が必要となった際には、適時に開示をする方針でございます。
Q3	法人税の計上額が小さいように思うがその理由について
A3	弊社では、過去に税務上の欠損金が発生しており、四半期決算上の税金計算においても欠損金の繰越控除を行っていることが主な要因になります。

Q4	2021年10月期第1四半期において、コロナによる影響を受けていたイベントマーケティングの売上が前年同期並みの水準に戻っているのですが、主にリアルイベントが回復したのか、バーチャルイベントなどオンライン系が伸びたのかどちらの影響が大きいのでしょうか？
A4	後者でございます。バーチャルなどのオンラインイベントの受注が伸びております。

- 本発表において提供される情報は、いわゆる「見通し情報 (forward-looking- statements)」を含みます。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社または当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。
- これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動等、一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。
- 投資判断を行う際は、必ず弊社が開示している資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願い致します。